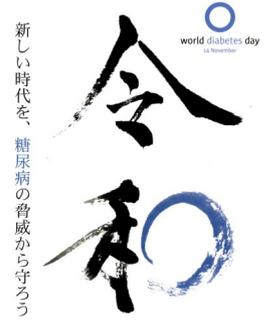


## 11月14日は「世界糖尿病デー」

### 世界糖尿病デーとは

世界糖尿病デー(WDD)は、糖尿病の脅威が世界的に拡大しているのを受け、世界規模で糖尿病に対する注意を喚起するための日です。1991年に開始され、2006年には国連の公式の日になりました。11月14日は、1922年にインスリンを発見したフレデリックバンティングの誕生日にあたります。

世界糖尿病のキャンペーンには、青い丸をモチーフにした「ブルーサークル」がシンボルマークとして用いられます。国連やどこまでも続く空を表す「ブルー」と、団結を表す「輪」をデザインし、「Unite for Diabetes“(糖尿病との闘いのため団結せよ)”というキャッチフレーズとともに、世界中で糖尿病抑制に向けたキャンペーンを推進しています。



▲2019年世界糖尿病デーポスターコンクール最優勝作品

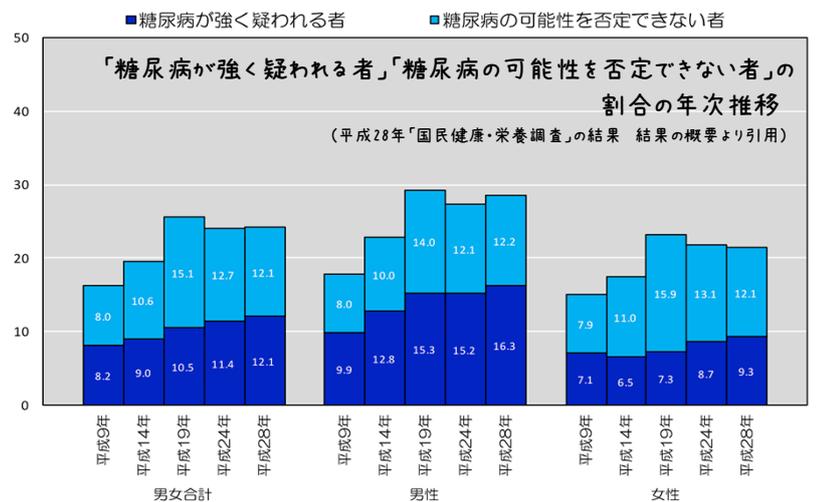


▲日本と世界各地のブルーライトアップ

### 日本には糖尿病がある方はどれくらいいるの？

日本人のうち、糖尿病が強く疑われる者(糖尿病有病者)、糖尿病の可能性を否定できない者(糖尿病予備群)はいずれも約1000万人で、合わせて約2000万人とされています。

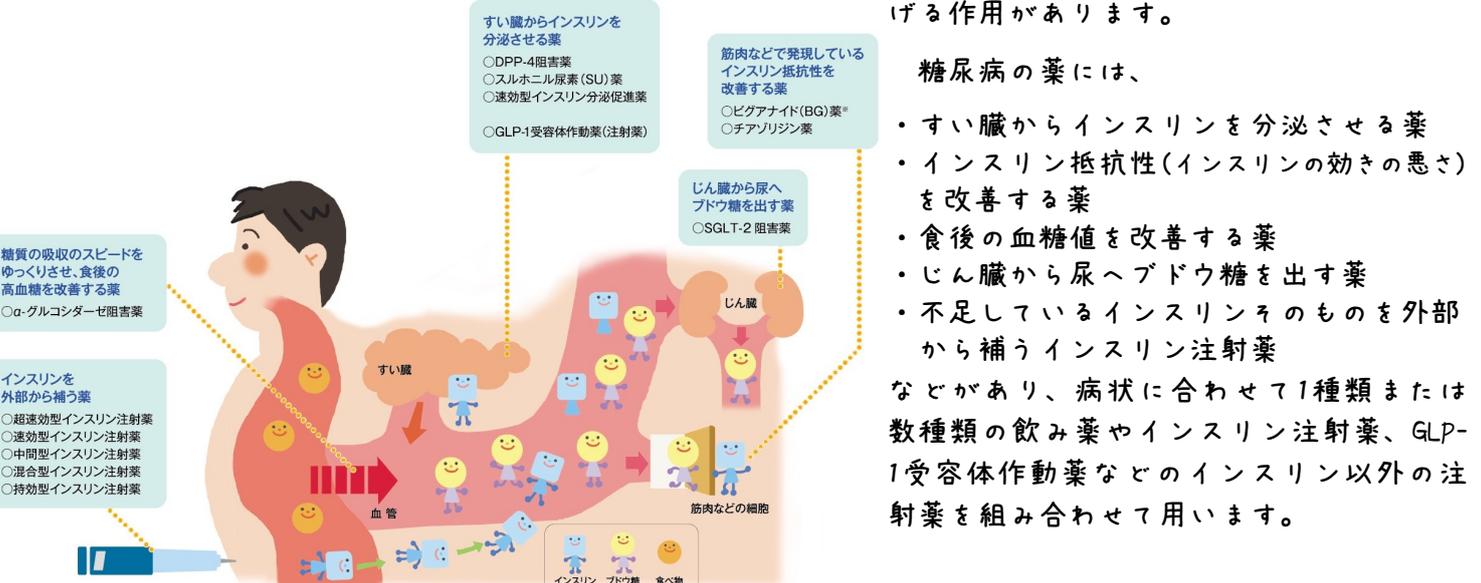
糖尿病が強く疑われる者(図中青色)の人口に対する割合は男性16.3%、女性9.3%であり、年齢が高いほど糖尿病有病者の割合が高くなる傾向にあります。また糖尿病有病者の割合は最近20年間で増加傾向にあります。



①「糖尿病が強く疑われる者」とは、ヘモグロビンA1Cの測定値がある者のうち、ヘモグロビンA1C (NGSP) 値が6.5%以上(平成19年まではヘモグロビンA1C (JDS) 値が6.1%以上)、又は「糖尿病治療の有無」に「有」と回答した者。  
 ②「糖尿病の可能性を否定できない者」とは、ヘモグロビンA1Cの測定値がある者のうち、ヘモグロビンA1C 値が6.0%以上、6.5%未満(平成19年まではヘモグロビンA1C (JDS) 値が5.6%以上、6.1%未満)で、「糖尿病が強く疑われる者」

### 糖尿病治療薬と作用機序

糖尿病の薬はいずれも「インスリンの作用不足」を改善したり、糖の吸収や排泄に働くことで、血糖値を下げる作用があります。



糖尿病の薬には、

- ・すい臓からインスリンを分泌させる薬
- ・インスリン抵抗性(インスリンの効きの悪さ)を改善する薬
- ・食後の血糖値を改善する薬
- ・じん臓から尿へブドウ糖を出す薬
- ・不足しているインスリンそのものを外部から補うインスリン注射薬

などがあり、病状に合わせて1種類または数種類の飲み薬やインスリン注射薬、GLP-1受容体作動薬などのインスリン以外の注射薬を組み合わせで用います。